

最後の一枚

目標

物語を読んで、登場人物の気持ちの変化を読み取り、作者が伝えたいことを考える。

読む前に

- ① みんなで何かを作るとき、意見がちがったことがありますか。
- ② 失敗したとき、すぐに人に言えますか。それとも、かくしくなりますか。
- ③ 失敗から、よいアイデアが生まれたことはありますか。

青い紙は、あと一枚しか残っていなかった。

文化祭のポスターを作るために、先生が色画用紙を用意してくれた。赤、黄色、緑、白。いろいろな色があったけれど、海の色にぴったりの青は、もう最後の一枚だった。

ぼくたちの班は、「未来の町」というテーマでポスターを作ることになっていた。ぼくは、町のそばに大きな海を作りたいかった。広い海があると、町が自由に見える気がしたからだ。

「その青、使ってもいい？」

同じ班の莉子が、青い紙に手をのばした。

「あ、ぼくも使いたい。」

二人の手が同時に紙にふれた。

次の瞬間、くしゃつ、という小さな音がした。

青い紙のすみに、細いしわが一本入っていた。

莉子が手を止めた。ぼくも動けなかった。班の机の上が、急に静かになった。

「ごめん。」

どちらが先に言ったのか、分からなかった。

ぼくは、しわの入ったところを指でおさえた。そうすれば、なかったことにできる気がした。

「大丈夫。こゝ、切れば使えるよ。」

でも、本当は大丈夫だとは思っていなかった。海を大きく作るには、そのすみまで必要だったからだ。

莉子は、青い紙をじっと見ていた。

「でも、切ったら小さくなるよ。」

「じゃあ、ほかの色でいいんじゃない？」

自分で言うてから、少しきつい言い方になったと思った。莉子は何も言わなかった。ただ、手をひっこめた。ぼくは胸の中がもやもやした。しわができたことよりも、莉子が黙ってしまったことの方が気になった。でも、「今の言い方、悪かった」と言うには、少し遅すぎる気がした。

作業は続いた。健太がビルを切り、三浦さんが文字を書き、莉子は小さな人や木を作った。ぼくは青い紙を自分の前に置いたまま、海の形を考えていた。

けれど、どう切っても、しわが目に入った。

「もう、海なしでもいいかも。」

小さく言うと、健太が顔を上げた。

「え、海やめるの？ さっきまで大事って言ってたじゃん。」

ぼくは言い返せなかった。

そのとき、莉子が静かに言った。

「ちよつと見せて。」

ぼくは、青い紙を渡すか迷った。しわを見られるのが、なぜか恥ずかしかった。

でも、莉子は待っていた。

ぼくは、青い紙をそつと渡した。

莉子は、しわの部分を指でなぞった。それから、少し首をかしげた。

「これ、波みたいじゃない？」

「波？」

「うん。ここを海の真ん中にしたらどうか。」

ぼくは、しわを見直した。さっきまで失敗にしか見えなかった線が、言われてみると、たしかに波の形に見えた。

三浦さんが身乗り出した。

「白い紙を細く切って貼ったら、もつと波みたいになるかも。」

「いいじゃん。」健太も言った。「海、平らじゃない方がかっこいいし。」

さっきまで重かった空気が、少しだけ動いた。

ぼくはまだ、すぐにはうなずけなかった。自分が失敗だと思っていたものを、みんなが別のものとして見始めている。そのことが不思議で、少し悔しかった。

莉子が、青い紙をぼくの方へ少し戻した。

「海、作るんですよ。」

その言い方は、「まだできるよ」と言っているように聞こえた。

ぼくは小さく息を吸った。

「うん。作る。」

そこから、班の作業は少し変わった。ぼくが青い紙を大きく切ると、三浦さんが白い紙で波を作った。健太は銀色の折り紙を細く切って、海に光を足した。莉子は、しわの線に合わせて、小さな船を作った。

船を貼ると、しわはもう失敗には見えなかった。海の上を風が通ったあとみたいに見えた。

「これ、最初からこうする予定だったみたい。」

健太が言うと、みんなが少し笑った。

ぼくも笑った。でも、心の中では、さっきの自分の言葉を思い出していた。

「じゃあ、ほかの色でもいいんじゃない？」

あのとき、ぼくは紙のしわを隠したかったのではなく、自分の失敗を見たくなかったのかもしれない。ポスターが完成したのは、下校の少し前だった。

大きな青い海のそばに、明るい町が広がっている。空にはバスが飛び、ビルの窓には黄色い光が入っている。海の真ん中には白い波があり、その上を小さな船が進んでいた。

先生が見に来て、少し驚いた顔をした。

「この波、いいですね。海に動きが出ています。」

ぼくは、青い紙のしわのことを言おうか迷った。言わなければ、先生はきっと気づかないだろう。

でも、莉子が先に言った。

「そこ、最初はしわだったんです。」

先生は、もう一度ポスターを見た。

「そっなんですか。いい工夫をしましたね。」

ぼくは、胸の奥が少しあたたかくなるのを感じた。失敗を知られても、思っていたほど恥ずかしくなかった。

帰りの会のあと、ぼくは莉子に言った。

「さっき、「めん。言い方、きつかった。」

莉子は少しだけ目を丸くした。それから、首を横にふった。

「私も、先に取りうとしたから。」

「でも、波って言うてくれてよかった。」

「ほんとに波に見えたから。」

教室の後ろの掲示板に貼られたポスターは、夕方の光を受けていた。青い海の上の白い波が、少しだけ光って見えた。

ぼくは思った。

失敗は、できればない方がいい。けれど、失敗したあとでしか見つからない形もある。

大事なのは、失敗を急いで隠すことではなく、そのあとでどう向き合つかを考えることなのかもしれない。

ぼくたちの未来の町には、少ししわのある海があった。

でもその海は、ぼくには、どの色紙よりも広く見えた。

問題

内容を確認しよう

1. ぼくたちの班は、何を作ることになっていましたか。

2. 青い紙には、何ができてしまいましたか。

3. 莉子は、しわを見て何と言いましたか。

気持ちを読み取ろう

「じゃあ、ほかの色でいいんじゃない？」と言ったあと、ぼくはどんな気持ちだったと思いますか。

「さっきまで重かった空気が、少しでも動いた」とあります。班の雰囲気はどう変わりましたか。

作者が伝えたいことを考えよう

「しわはもう失敗には見えなかった」とあります。なぜ、失敗に見えなくなったのでしょうか。

作者は、この物語を通して何を伝えたかったと思いますか。

この物語で作者が伝えたいことは、

だと思っています。

なぜなら、

からです。

宿題

「その海は、ぼくには、どの色紙よりも広く見えた」とあります。この文は、どういう意味だと思えますか。

次のテーマから一つ選んで、100〜150字で書きましよう。

失敗したあとで、考え方が変わった経験

田 友だちや家族と協力して、よいものができた経験

最初は失敗だと思ったけれど、あとでよかったと思えた経験

[B1-3] よんでみよう 保護者の方へ / For Parents

この教材で育てる力

B-1 では、物語文を読み、登場人物の気持ちの変化や人間関係を整理しながら読む力を育てていきます。文章を読むときに、出来事を追うだけでなく、登場人物の言葉や行動を手がかりにして、「なぜそう感じたのか」「なぜ考え方が変わったのか」を読み取る力を身につけていく時期です。

In B-1, students read literary texts and develop the ability to understand changes in characters' emotions and relationships. They learn not only to follow events, but also to use characters' words and actions as clues to understand why characters feel a certain way and why their thinking changes.

本文の内容を理解するだけでなく、作者が何を伝えようとしているのかを考え、自分の言葉で説明することも大切にしています。読んだ内容をもとに感情の流れを整理し、根拠を添えて答えることで、国語的な読解力を深めていきます。

Students not only understand the content of the text, but also think about what the author is trying to communicate and explain it in their own words. By organizing the flow of emotions and answering with evidence from the text, they deepen their Japanese reading comprehension skills.

日本語にふれる時間や読書経験は、一人ひとり異なります。そのため、物語文の中で登場人物の気持ちの変化を読み取り、自分の言葉で整理することは、多くの学習者にとって簡単ではありません。B-1 では、将来の国語学習や入試にもつながる力として、心情理解や作者の意図を読み取る練習を大切にしています。

Each student has a different amount of exposure to Japanese and reading experience. For many learners, understanding changes in characters' emotions and organizing them in their own words is not easy. In B-1, we place importance on practicing emotional understanding and reading the author's intention as skills that connect to future Japanese language study and entrance exams.

授業の進め方

授業では、本文を読む前に、物語のテーマに関係する経験や考えを思い出し、内容をイメージしやすくします。本文を読むときには、出来事の流れを確認しながら、登場人物の気持ちやどの場面でのどのように変わったのかを整理していきます。

Before reading, students think about experiences and ideas related to the story's theme, which helps them imagine the content more easily. While reading, they check the flow of events and organize how the characters' feelings change in each scene.

読んだあとは、本文の内容を確認しながら設問に答えます。特に、登場人物の言葉や行動、場面の雰囲気注目しながら、気持ちの変化や人間関係の変化を考えます。限られた時間の中で考えをまとめ、作者が伝えたいことを自分の言葉で説明する練習を行います。

After reading, students answer questions while checking the content of the text. In particular, they focus on characters' words and actions and the atmosphere of each scene as they think about changes in emotions and relationships. They practice organizing their thoughts within a limited time and explaining the author's message in their own words.

書ききれなかった部分や、さらに深く考える問題は宿題として取り組みます。この積み重ねを通して、読む力・感情を整理する力・考えを説明する力を少しずつ伸ばしていきます。

Any unfinished work or questions that require deeper thinking may be completed as homework. Through repeated practice, students gradually develop their reading skills, their ability to organize emotions, and their ability to explain ideas clearly.

宿題について

宿題では、漢字や語彙、自然な言い回しの練習に加えて、物語の重要な表現について考えたり、自分の経験とつなげて短い文章を書いたりします。読んだ内容をそのまま写すのではなく、登場人物の気持ちや物語の意味を自分の言葉で整理する力を育てていきます。

For homework, students practice kanji, vocabulary, and natural expressions, as well as reflect on important expressions in the story and write a short response connecting the story to their own experience. Rather than copying the text, they learn to organize the characters' feelings and the meaning of the story in their own words.

また、物語のテーマに関係する自分自身の経験や考えを書く課題にも取り組みます。読解力だけでなく、気持ちを言語化し、理由を添えて説明する力を育てることを目的としています。

Students may also work on assignments in which they write about their own experiences and ideas related to the story's theme. The purpose is to develop not only reading comprehension, but also the ability to put feelings into words and explain ideas with reasons.

こうした力は、中学校以降の国語、記述問題、作文、小論文にもつながります。B-1 では、教養や知識を大きく増やすことよりも、物語文を正しく読み、感情の変化や作者の意図を整理する力を重点的に育てていきます。

These skills connect to junior high school Japanese, written-response questions, compositions, and essays. In B-1, rather than greatly increasing general knowledge, the focus is on accurately reading literary texts and developing the ability to organize emotional changes and the author's intention.

宿題の内容は、クラス全体のレベル感と、それぞれの生徒の必要に合わせて調整します。毎日 10 分ずつ取り組める量を基本にし、ご希望に応じて増やすことも可能です。

Homework is adjusted based on the overall class level and each student's individual needs. The amount is designed so students can work on it for about 10 minutes each day, and it can be increased upon request.

Skills Developed

・物語文を読む力

Reading literary texts

・登場人物の言葉や行動を手がかりに読む力

Using characters' words and actions as clues

・出来事の流れを整理する力

Organizing the flow of events

・登場人物の気持ちの変化を読み取る力

Understanding changes in characters' emotions

・人間関係や場面の雰囲気を読み取る力

Understanding relationships and the atmosphere of each scene

・作者が伝えたいことを考える力

Thinking about the author's message

・本文を根拠にして説明する力

Explaining ideas with evidence from the text

・自分の気持ちや経験を言葉にする力

Putting one's own feelings and experiences into words

・中学校以降につながる読解力・表現力・記述力

Building reading comprehension, expression, and writing skills for junior high school and beyond